酒田市総合計画審議会　第３回ひとづくり・まちづくり部会　議事要旨

１．日時

平成２９年７月１２日（水）１３：００～１４：４５

２．場所

酒田市役所　第２委員会室

３．出席者

【酒田市総合計画審議会委員　ひとづくり・まちづくり部会委員】

所　　属	氏　　名	備　　考
酒田市自治会連合会連絡協議会会長	阿部　建治	部会長
酒田市コミュニティ振興会連絡協議会会長	佐藤　善一	副部会長
松山地区コミュニティ振興会連絡協議会会長	齋藤　吉男	
酒田市芸術文化協会会長	工藤　幸治	
酒田飽海ＰＴＡ連合会母親委員会会長	佐野　亜古	
東北公益文科大学学長	吉村　昇	

【事務局】

総務部長、市政推進調整監、教育部長、消防調整監、企画振興部長、市民部長、環境衛生調整監、建設部長、政策推進課長

４．議事内容

【事務局より会議の成立について報告】

・本日の出席委員は６人であり委員定数８人の半数以上となっていることから、酒田市総合計画審議会条例施行規則第４条の規定により、本日の会議は有効である。

【事務局より説明】

（１）今後のスケジュールの確認

・資料１に沿って事務局より説明

（２）基本計画の第一次原案について

・資料２～４に沿って事務局より説明

【委員からの質疑・意見等概要】

○（委員）１－２『大学とともにつくる「ひと」と「まち」』には公益大のことしか出てこない。酒田には県立の産業技術短期大学庄内校もあるが、一度も出てこないのはなぜか。

○（委員）同じ件で、全体を見ると東北公益文科大学の知的財産を活用させていただこうという記載が多く見られる。大学は酒田市のためにあるものでなく、学生が自身の未来に向かって学問するところ。市が大学に「おんぶにだっこ」になってはいけないのではないか。

○（委員）公設民営なので自治体と大学が連携しながらできるものを進めていくのは良いこと。だが公益大だけでは限界がある。社会科学系の１学部だけで市全体をカバーすることはできない。他の高等教育機関と連携しないと酒田市全体の発展は望めない。産業技術短期大学は工学系なので産業振興と絡めて将来計画に盛り込んだ方が良い。

⇒産業技術短期大学については産業振興の視点から加えていきたい。

○（委員）各シートの○のところ、①のように番号を打つことはできないか。内容を確かに伝える方法の一つとしてそういったやり方もある。

⇒今回の計画では、見やすさ、わかりやすさを主眼に置いている。ご意見を参考にして、全体的に見せ方を見直していきたい。

○（委員）市民体育祭などで、複数のコミュニティが小学校の統合に伴って１つのチームとして出ているところもある一方で、小学校が統合されてもそれぞれの小さなコミュニティで出場しているところもある。港南と亀城の統合の姿に、今後の一つの方向性を見たような気がした。年配の方と若い世代では意見の相違がある。それを総合計画の中でどうまとめていくか。地域によって作り方も違うが、コミュニティは学校中心とした考え方を計画の中に含めていけないか。

⇒地域ごとの活動の仕方について、地域性もあるため、行政の方であまり強制はできないかとは思う。港南と亀城はもともと１つだったものが２つに分かれ、また１つに戻った形のため、抵抗は少なかったと思われる。一方で昭和時代の旧村のコミュニティの影響が強いところもある。今後人口減少が続く中で本当に維持できるのかという問題もあるので、５－１「住民と行政の協働による地域運営ができるまち」の今後の方向性の３つ目の○に「適切なコミュニティ振興会の規模、コミュニティ振興会同士の連携のあり方についても、必要に応じて検討していきます」と記載しているので、具体的なお話があれば総合計画の方向性に基づいて支援をしていきたい。

⇒（委員）一気に打ち出すと抵抗感がある。あまり色濃くしないで時間をかけたほうがいいが、人口減少は差し迫った問題のため、方向性だけは今の段階から匂わせていかないと次につながらないと思うのでその方向でお願いしたい。

○（委員）公共施設の適正化計画検討委員会での内容がどこから漏れたのか、マスコミに流れ、施設がなくなるのか、といった話になった経緯があった。情報の管理、情報を出すのはいいが、計画の内容はどこまで情報を流すのか、このあたりの考えは。

⇒公共施設適正化基本計画は平成２７年３月に策定、平成２８年３月に実施方針をつくった。これに基づいてコミュニティ振興会の皆さんには今後の施設のあり方についてご説明した。これはあくまで市の内部方針であり、たたき台である。たとえばある施設を廃止するとなったときには、具体的に地域の皆様と協議をしながら進めていくのでご理解いただきたい。

⇒（委員）個人的には理解しているが、マスコミに流れたことで周囲では議論になった。慎重になされるべきであった。

○（委員）松山では統合されて４つの地区に小学校１つになった。小学校でなにかするときに４地区全てが集まらなければならない。このあたりうまくやっていくためにアドバイスなどいただければ。

⇒１つの学校に１つのコミュニティ振興会という形が崩れ、今まで通りにはいかないことは認識している。地域性もあるので具体的な方法をお話しするのは難しいが、皆が「地域の子どものために」という意識を共有して、それぞれが我慢しながら一体でやれるような方策を考えていかないといけない。

○（委員）子どもの教育がすべてと言っても過言でないと考えている。酒田における大学への進学率は。

⇒平成２８年度で大学・短大等（専修学校は除く）への進学率は３８．８％。

○（委員）小学生のうちから、いかに酒田を好きになってもらうか、そのための社会教育が必要では。単行本の作成など、我々の目にも見えるように充実させてほしい。

⇒１－３「公益の心を持ち明日をひらく子どもたちを育むまち」に「自分の育った地域を愛する心を育むため、伝統文化を知る・学ぶ機会の充実や学校・家庭・ 地域相互の連携を大切にした活動を推進」する旨を記載させていただいている。現時点では地域教材を活用して郷土愛を育む取り組みをしている。また小学校の多くが地区のボランティア活動に参加しており、全国学力・学習状況調査では、地域社会などで、ボランティア活動に参加している小学生の全国的な割合は３０％くらいだが、酒田では５０％を超えている。郷土に対する愛情を育み、将来、酒田に寄与してくれるような人材に育ってくれればという思いで事業を行っている。

⇒（委員）今年の市民芸術祭のポスターは、酒田出身の画家である佐藤真生氏の作品である。佐藤氏は製作にあたって酒田を想起したとのこと。酒田はいいところだと思ってもらうための切り込み方として、郷土愛の醸成のため教育委員会ではこれまでにもたくさん冊子を作ってきているが、今後も力を入れて欲しい。精神性を育てるという部分は明文化しにくいと思うが、一層の奮闘を期待する。

○（委員）遊佐で山村留学について検討しており、来年度現実に実施することになった。こういった取り組みが酒田でもうまくいけば、高校時代から酒田に来て、大学進学や就職を経て活躍するというモデルになり得ると思うがいかがか。

⇒山村留学の意義は理解するところであるが、やるとなると受入体制を含めて検討する必要がある。

○（委員）「塞道の幕」のように、酒田には埋もれた財産がたくさんある。発掘できないか。

⇒日本遺産に登録されたことで、今年度に「塞道の幕」を使った講演会の開催を計画している。また各家庭に残っている価値のあるものなども発掘して、皆さんに知っていただけるような取り組みも大切である。また光丘文庫などのような建物についても考えていかなければいけないと思う。こちらについては政策シートで言及している。

（以上）